

産地戦略

実施期間 令和5～6年度

実施主体 滋賀県
都道府県 滋賀県
対象地域 県内全域
対象品目 施設イチゴ、施設キク、ハウスイチジク



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

滋賀県では平成15年に環境ごだわり農業推進条例を制定し、環境と調和のとれた農業生産の確保と琵琶湖の環境保全を推進しており、化学農薬の使用量低減をめざしている。

「赤色LEDランプ」の導入により、園芸品目におけるアザミウマ類の被害低減が可能となり、化学農薬の使用量の低減、薬剤散布の省力化につながり、「グリーンな栽培体系」として普及定着を図る。

現在の栽培体系（施設イチゴ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	防除 (週に1回程度)							防除			防除	防除	アザミウマ類を対象とした作業
技術名	微細ネット展張							微細ネット展張					アザミウマ類を対象とした技術



グリーンな栽培体系（施設イチゴ）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	防除 (2週に1回程度)							防除			防除	(防除)	アザミウマ類を対象とした作業
技術名	微細ネット展張							微細ネット展張					アザミウマ類を対象とした技術
	赤色LED点灯										赤色LED点灯		

現在の栽培体系（施設キク）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	薬剤防除（10～14日に1回、計13回程度）					薬剤防除（10～14日に1回、計11回程度）							アザミウマ類を対象とした作業
	(盆前出荷作型)					(年末出荷作型)							
技術名													アザミウマ類を対象とした技術
													防虫ネット展張



グリーンな栽培体系（施設キク）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	薬剤防除（計8回程度）					薬剤防除（計7回程度）							アザミウマ類を対象とした作業
	(盆前出荷作型)					(年末出荷作型)							
技術名													アザミウマ類を対象とした技術
													赤色防虫ネット展張
	赤色LEDランプ点灯（盆前出荷作型）					赤色LEDランプ点灯（年末出荷作型）							

現在の栽培体系（ハウスイチジク）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		除草	除草薬剤防除②	薬剤防除③									アザミウマ類を対象とした作業
			薬剤防除①										
技術名	微細ネット												アザミウマ類を対象とした技術
	光反射シート												



グリーンな栽培体系（ハウスイチジク）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名		除草	除草薬剤防除	(薬剤防除)									アザミウマ類を対象とした作業
			薬剤防除①										
技術名	微細ネット												アザミウマ類を対象とした技術
	光反射シート												
	赤色LEDランプ点灯												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	29.2	▶ 35.6	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.07	▶ 0.7	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.07	▶ 0.7	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.07	▶ 0.7	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 赤色LEDランプによるアザミウマ類の防除	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	（施設イチゴ）化学農薬の使用回数（回）	10～11	▶ 6～7	アザミウマ類を対象とした回数
環境省 力	（施設キク）化学農薬の使用回数（回）	11～13	▶ 7～8	アザミウマ類を対象とした回数
環境省 力	（ハウスイチジク）化学農薬の使用回数（回）	3	▶ 1～2	アザミウマ類を対象とした回数
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

栽培マニュアルを用いて、研修会等で化学農薬の使用量低減に向けた技術指導を行う。また、関係機関との連携を図り、栽培体系の普及・定着を図る。

関係者の役割

関係者名	滋賀県	滋賀県園芸農産振興協議会		
役割	技術指導、普及推進	普及推進		

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R●）（ha）	備考

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

その他